

地球温暖化交渉で活躍する人材養成・ネットワークづくり
～COP 参加ノウハウ・情報収集・政策提言を学ぶ～

1)趣旨・目的

近年、世界各地で気候変動の悪影響が増加しており、気候変動対策の緊急性は増している。国際交渉の場では気温上昇を2度未満に抑制すべしとの合意があるが、現在各国が約束している行動のレベルではこれを達成できない。各国政府を後押しし、国際交渉を前進させることが NGO・NPO に求められている。

ところが、環境問題に取り組む日本の NGO・NPO で、国際交渉の動向を把握し、これを前進させるための活動に関わっている人材は極めて少なく、若い世代も十分に育っていない。気候変動枠組条約締約国会議、国連持続可能な開発会議（リオ+20）に実際に参加した NGO・NPO スタッフや学生も多数いるが、どうすれば現場で国際合意の前進に貢献できるのか、ビジョンやノウハウ、効果的な活動手段は共有されていない。また、これらの層の関心にこたえるような講座が開催された例は極めて少ない。

以上から、本講座では、地球温暖化防止のために国際交渉の動向を把握し、国際交渉を前進させるための活動に主体的に参加することのできる人材を発見し、育成とネットワーク化を進めることを目的とする。より具体的には、次の点をめざす。

1. 地球温暖化をめぐる国際交渉の背景、現状、課題について理解を深め、主体的に情報を集め、意見を持ち、議論ができるようになる。
2. 国際交渉における NGO・NPO の役割について理解を深め、国際合意を前進させるための状況の判断と発信するメッセージの内容や効果について学び、考える。
3. 現実の国際交渉の動向や NGO・NPO の役割を踏まえた政策提言を行う能力を向上させる。

2)日程

2012年10月27日(土)、28日(日)

3)会場

早稲田奉仕園 日本キリスト教会館 6階 6AB

4)対象

地球温暖化防止の国際交渉に関心のある肩、地球温暖化防止の国際会議への参加を考えている方(原則として2日間の講座に参加できる方)を募集。なお、実際の参加者の大部分は大学生、あるいは大学院生であった。

5)概要・プログラム

地球温暖化防止の国際交渉について、研究者、NGO、実務者、メディア、政策決定者といった様々な立場で活躍されている講師による講演と、実習課題、交流のためのワールドカフェ、提言づくりワークショップを実施した。最後のワークショップではグループ毎に現状の問題、理想の状態、提案内容、提案方法について検討し、発表を行った。

<1日目>

10:30	開会
10:30～10:40	趣旨説明、主催者挨拶・アドバイザー紹介
10:40～10:55	アイスブレイク
10:55～12:40	講演「気候変動をめぐる国際交渉の概要と最新動向」高村ゆかり氏
12:40～13:30	休憩
13:30～15:00	講演「国際交渉における NGO の役割と活動」平田仁子氏
15:00～15:10	休憩
15:10～15:50	講演「気候変動交渉における日本の役割～COP3 議長の経験から～」大木浩氏
15:50～16:30	報告「気候変動交渉の情報収集方法」山岸尚之氏
16:30～16:45	情報収集の課題説明(伊与田)
16:45～17:00	閉会あいさつ、講座 2 日目の説明
17:00	終了

<2日目>

10:00～10:20	開始、情報収集の課題の回答、フィードバック(伊与田)
10:20～11:10	報告「政府から見た NGO の役割」小島敏郎氏
11:10～12:00	報告「メディアから見た NGO の役割」日比野敏陽氏
12:00～13:00	休憩
13:00～14:30	ワールドカフェ「国際交渉を前進させるための NGO の役割」(伊与田)
14:40～16:30	ワークショップ「COP18 に向けて”提言”を作ってみよう」(田浦)
16:30～16:50	地球環境基金ご案内、アドバイザーのコメント
16:50～17:00	振り返り、アンケート記入
17:00	終了

6) 講座の評価

講座について、受講者の 88%が「とても有意義だった」、12%が「有意義だった」と答えており、ネガティブな評価はゼロだった。受講生からは「これまで誰も教えてくれなかったことを知ることができた」などという声が寄せられており、他にない学びの機会を提供できたことが高評価につながったと思われる。後日、この講座をきっかけに知り合った受講生がこの分野に関する活動に参加するようになったり、実際に COP に参加したりすることもあり、講座がその後につながっている例も見受けられた。

参加者同士の交流については、ワールドカフェが楽しかったという声が寄せられる一方、交流の時間が足りないなどの声がアンケートで寄せられた。当初の想定より受講者数が多くなったこともあり、十分に交流ができなかった可能性がある。ただ、講座終了後には会場で多くの受講者が名刺交換をしたり、話し込んでいたりする光景が見られた。講座プログラム内では交流時間が物足りなかったかもしれないが、交流のきっかけづくりとしては成功していたともいえるだろう。

7)意見・提言等

政策提言づくりワークショップのデザインにはさらに工夫の余地があったかもしれない。本講座の成果が形作られるワークショップでは、限られた時間、限られた情報から質の高い政策提言を作成するのは容易ではなかった。このため、政策提言だけでなくアクションの企画も可能として進めた。アンケートの結果、ワークショップの満足度は悪くなかったが、さらに工夫ができないか検討したい。アンケートにあったように、事前に課題を出すなどの工夫によってレベルの高いワークショップができるような配慮があっても良かったと思われる。

また、セッションの順番の組み方には工夫の余地がある。例えば、1日目は座学形式で参加者同士が交流できる機会はほとんどなかったが、2日目の午後はすべて参加者が共同で取り組むワークであった。ワールドカフェのような企画は初日の開催とし、初日から交流できる場をさらに設ける、セッションの順番を入れ替えるなどによってよりめりはりのある講座進行が可能となったかもしれない。ただし、講師の日程の都合があるため、すべてが企画通りに設定できない可能性もある。

今後も、気候変動交渉の人材養成・ネットワークづくりを目的とする講座を継続的に開催することが望ましいと考える。今回の講座を通して、定員を上回る申し込みがあるなど、関心を持つ人が多くいることがわかった。この関心に応える必要に加えて、情勢の変化にあわせたフォローアップできる講座の開催やネットワークづくりも必要であると考えられる。

8)当日の様子



講演の様子



講演の後の質問ワークの様子



盛り上がるワールドカフェ



提言づくりワークショップ